

FIRST プログラム「強相関量子科学」理論フォーラムワークショップ
(東京大学 QPEC 共催)

「スピン物性物理学の将来展望」

日時： 2011 年 4 月 28 日 (木曜日) 10:00~18:40

場所： 東京大学工学部 6 号館 セミナー室 A (3F)

プログラム：

	講演者	所属	タイトル
10:00-10:10	永長 直人	東大工	はじめに
10:10-10:50	芝内 孝禎	京都大学理	量子スピン液体における熱輸送測定
10:50-11:30	大岩 顕	東大工	InAs量子ドットにおけるスピン軌道相互作用と多体効果の電氣的制御
11:30-12:10	十倉 好紀	東大工	創発物質科学
12:10-13:00			昼食
13:00-13:40	村上 修一	東工大理	強磁性スピン波波束の運動とホール効果
13:40-14:20	小野田 繁樹	理研	Quantum dynamics of intrinsic magnetic topological defects: monopoles and skyrmions
14:20-15:00	有田 亮太郎	東大工	バルク結晶における巨大Rashba型スピン分裂
15:00-15:40	求 幸年	東大工	スピン電荷結合系におけるフラストレーションと新奇な磁性・伝導現象
15:40-16:00			休憩
16:00-16:40	石坂 香子	東大工	Giant Rashba-type spin splitting in polar Bi compound
16:40-17:20	中辻 知	東大物性研	パイロクロア格子上のスピン液体とゼロ磁場ホール効果
17:20-18:00	小林 研介	京大化研	半導体ナノ構造における量子ショット雑音
18:00-18:40	小野瀬 佳文	東大工	電子とマグノンのトポロジカルホール効果
19:00-21:00			意見交換会